

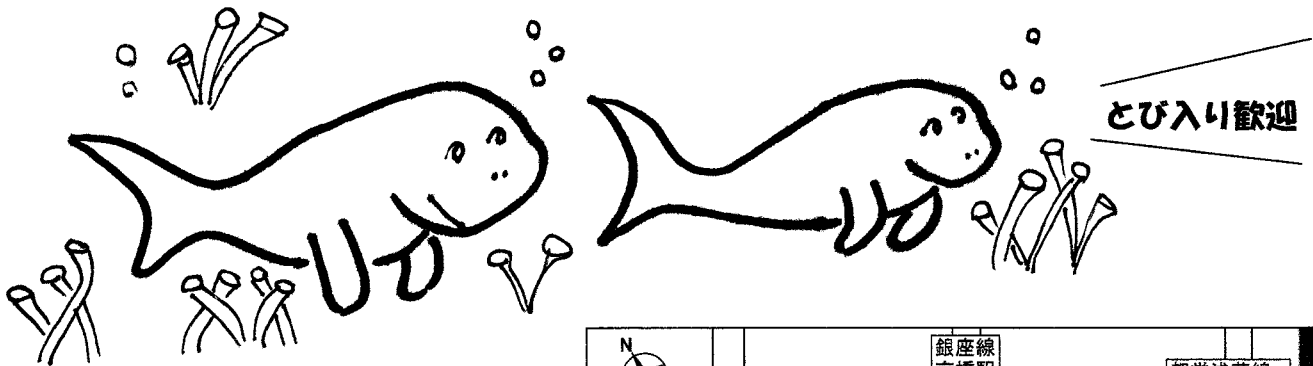
沖縄に基地はいらない ジュゴンの行進!

★沖縄の辺野古と大浦湾に米軍基地をつくる計画を日本とアメリカ政府がすすめています。

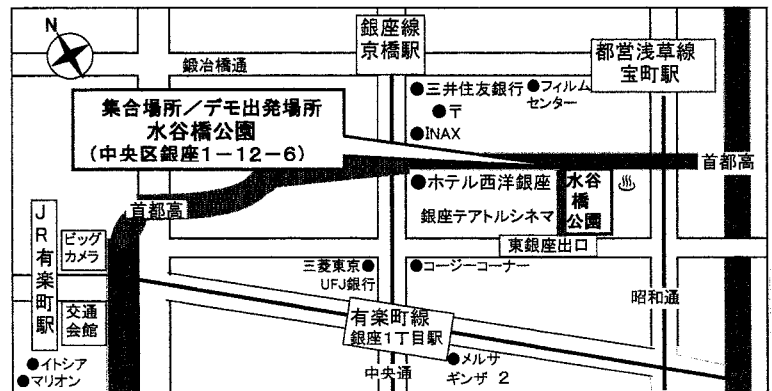
ジュゴンやアオサンゴなど希少生物の住む自然豊かな海を破壊する基地建設が、わたしたちの税金「少なくとも3500億円」(防衛省)を使って行なわれるのです。

★防衛省沖縄防衛局の出した基地建設にかかわる環境影響評価(アセス)準備書に対して、全国から5317通の意見書が出され、計画を白紙にもどすようにとの多くの声が寄せられました。

★9月12日、「基地にNO!」を掲げて銀座をデモ行進します。10月には準備書にたいする沖縄県知事の意見書が出ます。沖縄に、そして新政府に、わたしたちの声をもう一度、届けよう。



*** 9月12日(土)**
午後3時
水谷橋公園に集合
3時半に出発



日本にある米軍基地の75%が沖縄に集中しています。基地周辺の住民は軍事訓練の事故や、爆音と呼ばれる会話も困難なほどの米軍機の騒音に昼夜さらされています。米軍兵士の犯罪も絶えません。兵器の化学物質で土地も汚染されています。

日米政府は、南部の普天間飛行場は住宅密集地にあって危険だから北部の海辺・辺野古へ移すといいますが、古い基地を最新鋭のものに変え、長持ちする軍事基地として沖縄に置きつける計画です。――朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガニスタン、イラクへの侵攻と、沖縄から米兵が戦場にたち、日本に住むわたしたちの税金や土地が戦争に使われてきました。

在日米軍再編計画では、沖縄の基地の1%分が減るだけです。それでも“沖縄の負担を軽減するために辺野古に基地が必要”などと、まことしやかに言われてきました。

――わたしたちは、あらためて日米政府に訴えます。いまある基地をなくすこと。
新しい基地をつくらないこと。沖縄を軍事利用しないこと。

<http://www.jca.apc.org/HHK/NoNewBases/NNBJ.html>

辺野古への基地建設を
許さない実行委員会

連絡先: 沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック(090-3910-4140)、
市民のひろば(FAX: 03-3234-4118)

大浦湾の多様な環境には、多様な生物がいます。

^{ウミクサ}海草が広がり、絶滅のおそれがあるジュゴンやアオウミガメの命をささえています。

アオサンゴをはじめとするサンゴ類やさまざまな魚介類も生息し、アジサシなどの鳥が飛来します。

湾の奥にはマングローブの生える干潟があり、珍しい魚貝やカニが住んでいます。

大浦湾は人間にも^{かて}糧を与えてきました。

「海があったから、戦争を生き抜くことができた」と辺野古の人たちは語り継いでいます。



やんばるの森は県民の水がめ。希少生物の宝庫。

北部にはもう一つ、^{ひがしそん たかえ}東村の高江という集落を囲むように、ヘリ基地をつくる計画があります。

おもに農業で生計をたてる東村の人々は基地ができたら生活できません。

やんばるの森にだけ住むヤンバルクイナやノグチゲラなど

希少生物も危機にさらされています。

やんばるの森は飲み水を提供するダムを抱え、沖縄県民のみずがめといわれているところで、健康被害も懸念されます。



辺野古への基地建設を許さない実行委員会は、首都圏38団体のネットワークです。

毎月、第一月曜日18時半からは、防衛省前で月例集会を開催しています。沖縄・辺野古の浜からの電話メッセージを伝え、「基地はいらない」の声をあげるとともに、防衛省にも申し入れを行なっています。月1回の新宿または銀座でのアピール行動にも取り組んでいます。

辺野古とともに、高江へのヘリパット建設反対も中心課題としてきました。

これまで、防衛省前・人間の鎖行動(約700人)、防衛省・環境省・外務省などへの意見書提出と質疑応答による省交渉、辺野古への基地建設白紙撤回を求める署名運動(約15万筆達成)とロビー活動、グアム移転協定反対国会傍聴と国会前行動、辺野古基地建設のための環境アセスメント(環境影響評価)学習会と防衛省沖縄防衛局への意見書提出行動、その他のデモ・集会などで協働してきました。